

# 作って遊ぶ活動の実態と意識は

## 園と家庭の生活 関係明示

### 主な情報源はネット・SNS

全国国立幼稚園・こども園長

会(会長 箕輪恵美・東京都中央区立有馬幼稚園園長、国公幼)は、

前年度と本年度の2年間、身近なものとの関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究―身近なもので作って遊んで―親子で一緒に楽しもう!―に取り組んでいる。事業を進める特別事業委員会は、前年度実施した調査の結果をまとめ、空き箱や空き容器などで作って遊ぶ園での経験が家庭での遊びにつながっていることやSDGSの考え方に結び付いていることなどを明らかにした。今回は調査結果の内容を紹介する。

### 国公幼調査・提言 上

調査研究の狙いは、生活の中にある身近なものを利用して作って遊ぶことを通じた親子の触れ合いを広げ、さらには限りある資源を大切にすることを高めること。

「身近なもので作って遊ぶ活動に関する実態と意識についての調査」は昨年9月に実施し、全国の国立幼稚園・こども園から選定した対象園の保護者1348人、教諭532人が回答した。

調査結果によると、身近なもので作って遊ぶことに関する保護者の幼少期と子どもの実態について、作って遊んだ経験の頻度では「折り紙を使った遊び」「鉛筆、色鉛筆などを使った遊び」が親子共に上位だった。

その一方で、保護者の幼少期は「自然物を使った遊び」が3番目となったが、子どもは「空き箱、空き容器などを使った遊び」が一番多くなっている。特別事業委員会は「子どもは園生活での製作活動の経験が生きていると考えられる」としている。

親子で一緒に製作する際に情報を得ているものは「ネット検索やSNS」が75・1%で最も多く、「子どもが園で作ったものや、友達で作ったもの」が55・8%で続いた。

情報が豊かな現代、保護者が検索することは多様な経験につながるが、「子どもが園で作ったものや、友達で作ったもの」という回答も多く、園での経験が家庭での遊びにつながっていることも分

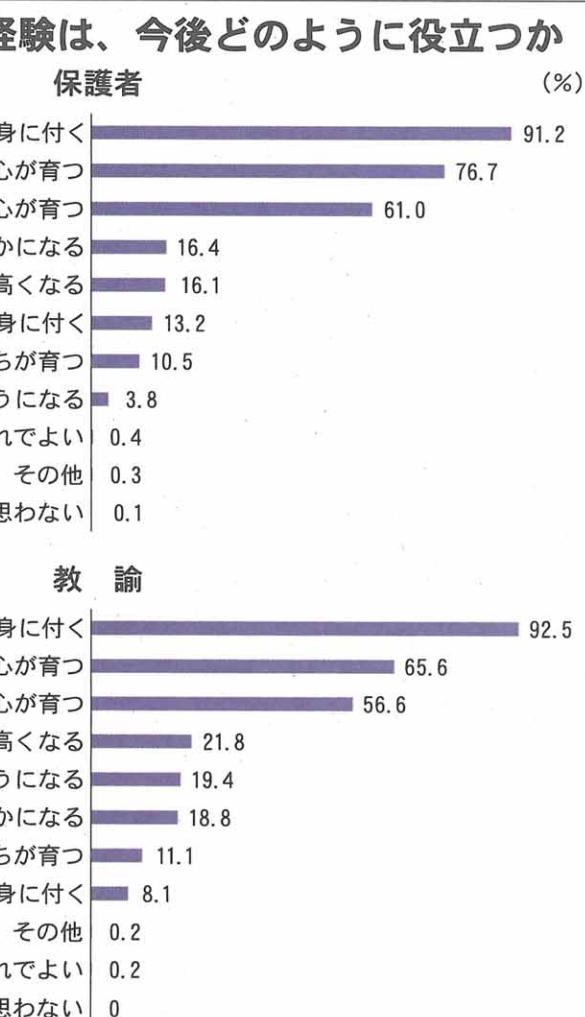
「幼児期の作って遊ぶ経験は、今後どのように役立つか」と保護者、教諭双方は、今後どのように役立つかについて、同じ質問をしたところ、

「工夫したりする力が身に付く」「興味・関心、好奇心、探究心が育つ」「さまざまなことを感じる心が育つ」が最も多く、教諭56・6%、保護者91・2%が回答している。

「豊かな心育成に影響」保護者・教諭共に重視

「豊かな心育成に影響」保護者・教諭共に重視

「豊かな心育成に影響」保護者・教諭共に重視



SDGS(持続可能な開発目標)の考え方や環境を考へて活動することが重要になる中、保護者と教諭に「エコロジーを考へる上で大切だ」という共通の質問を投げかけた。

「用器を子どもが扱えるようにしているから」が65・4%、「作ることに興味・関心がある」が60・3%で続いた。この結果から、園での経験の豊かさや家庭

が作って遊ぶことを好きな理由については「園で作って遊ぶ経験があるから」が67・5%で最も多く、

「生活がながりを持っていくことが明確になっ

た。

委員会は「保護者との連携、啓発への意識化や行動化を促すために、園から

て遊ぶ経験は、子どもの豊かな心を育む上で大切である

と考へられる」としている。

「と感していることが分る。」

「と感していることが分る。」

「と感していることが分る。」

「と感していることが分る。」

「と感していることが分る。」

「と感していることが分る。」

「と感していることが分る。」